

令和元年度碧南市市民活動センター指定管理者審査委員会 会議録

日 時：令和2年6月25日（木）午前9時29分～午前10時38分

場 所：へきなん福祉センターあいくる 第2会議室

出席者：審査委員6名

【長谷基宏、金子潤、永坂幸子、鈴木まゆみ、角谷恵里子、生田和重】

：事務局4名【鳥居典光、中根雄介、齋藤静絵、岩田晃宏】

：説明者1名【市民活動センター長 大野裕史】

傍聴者：なし

会議内容

1 あいさつ

委員長あいさつ

2 議題

(1) 令和元年度市民活動センター事業報告及び決算について

大野センター長より資料にもとづき説明

<質疑なし>

(2) 令和2年度市民活動センター事業計画及び予算について

大野センター長より資料にもとづき説明。

審査委員：車座講座や他の講座のテーマはどのように決めているか。

説明者：区分や分類で決めることがあります。また、まちづくり団体にクラウドファンディングやプロジェクトマネージャーなどを取り上げてもらったり、アンケートをもとに決めています。

審査委員：利用について地区によって制限はありますか。

説明者：地区による制限はないです。新川地区のみでなく碧南市全地区が利用できます。

審査委員：地区のまちづくり組織とまちづくり団体が地域で合致すると良いですね。だが、地区や市内にあまり存在が知られていないのではないかと。

説明者：サポプラスタッフの中に、地区のまちづくり組織の人がいます。

審査委員：地区は高齢で同じ人が継続してやっていることが多い。若い方と繋がってほしいですね。

審査委員：ファーストミッションボックスは良いと思いました。

説明者：ファーストミッションボックスを取り入れている自治体はいくつかあります。避難所には、行政側や利用者側目線で作られたマニュアルがあるが分厚いことが多いです。これは簡易的に役割を分けるものです。まず新川地区へ進めていきました。

審査委員：他の地区にも進めたいと思いました。

審査委員：新型コロナウイルスのこともあり今年度は予算と違ってくることはわかります。一般管理費は、本部や他市にあるボランティア活動センターや青少年センターなどの施設の運営費にあてられているが、それは細かく分けることができますか。計算方法は決まっているのか。それとも毎年変わるものなのか。

説明者：計算方法は変わっていないと思います。人数割や他の費用で計算されているが、費用は分けれるようにしている。

審査委員：事業収入ですが、実績が少なく予算が多いがどうなのか。

説明者：他のセンターの宿泊や貸館業務の収益で補填して運営しています。

審査委員：本部への一般管理費の内訳が見えてこない。さらに、予算と決算で差異がある。実態が見えるような予算組みを行った方が良いのではないか。

説明者：そのとおりです。事務局と今後協議していきたいと思います。

3 その他

<特になし>